

# 研究主題 「考え、伝え、学び合う児童の育成

## ～言語活動の充実を通して～

高学年分科会の目指す児童像・・・自分の考えや思いを目的に応じて伝え合い、深められる子

第6学年 国語科学習指導案

平成26年6月25日(水)

6年1組 27名

指導者 鈴木真理

1 単元名 (教材名) 「わたしの『をかし』を見つけよう」(春はあけぼの)

2 単元の目標と評価規準

「春はあけぼの」を読み、独特の響きを味わうとともに、千年前と今とを比べながら言葉について考える。

関心・意欲・態度	・千年前と今の季節感や言葉の違いや共通点を進んで見つけようとしている。
話すこと・聞くこと	・自分にとっての「をかし」について、理由をつけて的確に話している。 ・友達の考えをよく聞いて、自分と比較したり、よいところを取り入れたりしている。
読むこと	・清少納言の「をかし」とは、どういうことかを「春はあけぼの」から読み取り、自分の言葉で表している。
言語に関する知識・理解・技能	・古典独特の表現、リズムに気を付けながら音読している。 ・昔の言葉の中に、今も同じ言葉、今は無い言葉、今もあるが意味が違う言葉などがあることを理解している。

3 単元について

(1) 児童の実態

5年生からの持ちあがりクラスである。5年生の1年間、国語の授業を中心に、「自分の考えをまとめて発表する。」ということ意識して取り入れてきた。そのため、個人差はあるが、事前に準備をしていれば、みんなの前で何かを発表するというところへの抵抗感は少なくなっている。しかし、人の話をしっかり聞くということがまだまだ不十分であった。

6年生になって4月には「リレースピーチをしよう」という単元で、グループごとに共通の話題をもち、そこから一人ずつ関連したスピーチを続けていく活動をした。ここでは、同じグループの人のスピーチをしっかりと聞き、その時のみんなの反応、質問なども受けて自分のスピーチを始めなければならない。そのため、「人の話を聞く」ということがより重要となり、毎回「聞き取りカード」に記入をさせた。(スピーチ中は書き込みせず、終わってから書きこむ。)「目的をもって聞く」ということで、話の聞き方がよくなり、カードに的確な書きこみができるようになってきた。

また、5月になって「薫風・迷う」という2つの随筆の読み取りを行ったときも、それ

ぞれに自分の経験や考えを発表し合う活動を行った。その中で、「自分にとって、筆者のいう『薫風』のようなものは何か?」という課題で話し合いをしたときに、なかなか自分では考えられずにいる児童が多かった。しかし、数人の児童が自分の経験をもとに発表したら、「それなら自分にもある・・・」と気づき最終的には全員が発表することができた。

このように、自分が言うことばかりでなく、友達の話をよく聞いていくことの大切さに気付いてきてはいるが、まだまだ日常の中では、十分といえない。

また、「薫風」の学習では、匂い、音など五感を働かせて様々なものを感じる「感性」を磨いていくことも大切であると感じた。だから、この「春はあけぼの」を学習することによって、季節の移ろいや、自然の美しさにも目を向け心に向けられるようにしていきたい。

## (2) 単元構成について

本単元を通して、「友達と感じたことを話し合う」という活動を主軸とする。話し合いは4, 5人のグループでの話し合いを中心とし、その中で自分の考えを伝え、友達の考えを聞き、共感し合ったり、違いを比べたりしていくことで、より自分の考えを深めていけるとよいと考えている。

「春はあけぼの」は、千年ほど前に書かれた随筆ではあるが、四季ごとの季節の良さや自然の素晴らしさなど現代に通じるものもあり、児童に親しみやすい古文と言える。全体に「をかし」という言葉がキーワードになって描かれているので、その「をかし」に注目し、清少納言はどんなものを「をかし」と言っているのか、文の中から整理して確認していく。そしてそこから、「をかし」とは、今の言い方にするとどういう表現になるのかを自分なりに考え、それをグループで話し合っていく。

グループで話し合ったことを全体で発表し合い、自分たちなりの「をかし」という言葉のイメージをつかませる。その後、今の自分だったらどんなことを「をかし」と感じるのか、「わたしの『をかし』」を考え、それをまたグループで交流する。ここでの交流は何か答えを見つけるのではなく、お互いの感じ方を知り、共感したり、比較したりして自分の感性を磨いていくことに役立つとよいと考えている。

また、単元を通して、古典独特の言葉の言い回しや響きを楽しませたいので、音読を宿題などでも練習し、必ず授業初め、または最後には「春はあけぼの」全文の音読に取り組ませたい。

## 4 研究主題との関連

### ① この単元で身につけさせたい力

- ・ 言葉のもつ意味を文の中から考える力

### ② そのための手だて

- ・ **単元全体の見通しをもって学習に取り組ませる。**

本単元の導入で、清少納言や枕草子についてのガイダンスを行う。そのときにすでに、枕草子全体に「をかし」という言葉がキーワードになっていることを伝える。そして、この第1段「春はあけぼの」も季節ごとの「をかし」を集めているということを説明する。そして、「をかし」について考えながら読むこと、最終的には自分の「をかし」を見つけることが本単元のゴールであることを伝えておく。このことによって、何のために本文を読むのか、何

に気をつけて読んでいけばよいのかが、児童に明らかになり、学習の見通しをもって主体的に取り組めると考えた。

・一人で考える時間を確保し、その後にグループでの話し合いをもつ。

清少納言が「をかし」としたものの共通点を見つけていくときや、「わたしの『をかし』」を見つけるときに、一人でじっくりと、本文に向き合ったり、自分自身の経験と照らし合わせたりして考える時間をとる。そのことで、話し合うときに、自分の考えを自信をもって伝えられると考えた。また、いきなり全体での交流だと、自分の考えを言わずに終わってしまう児童もいるため、4, 5人のグループにして、全員が考えを出し合えるようにした。

・本文を一覧できるように一枚に印刷し、いつも文全体を見渡せるようにする。

教科書では、季節ごとに原文提示→現代語訳という流れで掲載されていて、各季節が細切れになってしまう。四季全体を通して、清少納言が「をかし」と感じているものを見渡せるように、全文を1枚に載せ、その下に現代語訳を載せ対応できるようにした。

・とりあげられているものを整理し、共通点を見つけやすくする。

「春はあけぼの」の中で、清少納言が「をかし」として挙げているものを、全体で整理し板書にまとめる。また、教科書の写真や、挿絵などを大きくしたものを黒板に貼り、それぞれがどんなものか視覚的にも分かりやすくし、イメージをもたせる。そのことによって、共通点に気付くことができると考えた。

5 学習計画（4時間扱い）

次	時	ねらい	学習活動	□評価 ☆支援 ・留意点
1	①	単元全体の見通しをもって「春はあけぼの」を読み、感じたことを発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季それぞれに「○といえば何だろう？」と問いかけ、季節感を感じるもの集めをする。</li> <li>・枕草子、清少納言についてのガイダンスを聞く。</li> <li>・「わたしの『をかし』を見つけよう」という単元全体の流れについて説明を聞く。</li> <li>・「春はあけぼの」の原文を読む。</li> <li>・範読を聞く→自分で声に出して読む。</li> </ul> <p>(繰り返し練習する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制限時間を設け（一つの季節2分）思いつくまま発表するよう促す。</li> <li>・清少納言については、歴史で学習したので簡単にふれ、枕草子全体に「をかし」という言葉がキーワードになっていることを伝える。</li> <li>・教科書では、季節ごとに分かれているため、全文が見通せるワークシートを配布し、それを読ませる</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・読んでみて思ったことを発表し合う。</li>   <li>・学習の感想を書く。</li>   <li>・「春はあけぼの」全文を音読する。(一斉読み)</li> <li>・本時の課題「清少納言の「をかし」を考えよう」を知る。</li> <li>・現代語訳をもとに、それぞれの季節で清少納言が「をかし」として挙げているものを確認する。</li> <li>・清少納言が「をかし」とするものの共通点を見つける。(自分の考えをもつ)</li> <li>・グループごとに、自分の考えを伝え合い、清少納言の「をかし」の意味を話し合う。</li> <li>・グループで話し合ったことを全体で発表し合う。清少納言の「をかし」についてまとめる。</li> <li>・学習の感想を書く。</li> </ul>	<p>(下に現代語訳を対応)</p> <p>☆難しい言い回し等あるので、まず教師が範読する。</p> <p>☆読んでみての印象、気に入ったこと、いいなと思ったことなど自由にいいことを伝える。</p> <p><b>関</b> 「春はあけぼの」を読んで感じたことを進んで伝えようとしている。(発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・速さがそろうように、全文の拡大したものを黒板に掲示し、一行ずつ始めと終わりを指示していく。</li> <li>・児童の言葉を季節ごとに整理して板書していく。そのときに、写真や絵なども使って、情景がイメージできるようにする。</li> <li>☆なかなか共通点を見つけられない児童には、いくつか観点をヒントとして与える。</li> <li>☆グループの話し合いの司会役はあらかじめ決めておき、話し合いの進行カードを持たせておく。</li> <li><b>読</b> 読み取ったことを根拠に自分の考えを伝えていく。また友達の考えを自分と比較しながら聞いて、「をかし」について考えていく。(話し合いの観察)</li> <li>・代表者が自分たちのグループで出た考え方や、話し合ったことなどを発表する。</li> </ul>
--	--	---	--

② 清少納言は、「をかし」という言葉をどういう意味で使っているのか考え話し合う。(本時)

2	③	<p>「わたしの『をかし』」を見つけグループで発表し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「春はあけぼの」を全文音読する。 一斉読みのあと季節ごとに交代して指名読み</li> <li>・「をかし」の意味を確認し、今の自分にとって「をかし」と思うものを見つけ発表メモを作る。</li> <li>・グループでわたしの「をかし」を発表し合う。 (感想を伝えたり、アドバイスをしたりする。)</li> <li>・自分の発表メモを見直し必要があれば加除訂正する。</li> <li>・学習の感想を書く。</li> </ul>	<p>☆前時に確認にした「をかし」の意味をこめて音読するよう指示する。</p> <p>☆ノートに箇条書きで書き出すように指示する。なるべくたくさん見つけさせる。できればその理由などもつけておく。(発表で言えればよしとする。)</p> <p><b>話・聞</b> 自分にとっての「をかし」を理由もつけてグループの中で伝えている。(グループの観察)</p> <p>☆グループの中でアドバイスや感想など伝えられた事を生かして、よりよい発表にするよう声をかける。</p>
	④	<p>わたしの「をかし」発表会をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「春はあけぼの」全文を音読する。 一斉読み</li> <li>・わたしの「をかし」発表会をする。 一人ずつ全体の前で発表する。発表後質問を受ける。発表が終わったら次の人を指名する。</li> <li>・「春はあけぼの」の中で自分が一番気に入っている季節を音読発表する。</li> <li>・学習の感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞いている児童は、聞き取りカードに共感度などを記入していく。(発表後)</li> </ul> <p><b>話・聞</b> 前時のグループ発表を生かして、自分の「をかし」を的確に伝えている。(発表)</p> <p>友達の発表を自分と比較したり、共感したりして聞いている。(観察。聞き取りカード)</p>

6 本時の学習（2 / 4時間）

(1) ねらい 清少納言が使っている「をかし」という言葉の意味を考える。

(2) 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	○評価 ☆支援 ・留意点
5	<p>・「春はあけぼの」の全文を音読する。</p> <p>・学習のめあてを知る。</p>		<p>・一斉読み。読みにばらつきが出ないように、全文を掲示し、読む速さを指し示していく。</p>
		<p>清少納言は、どういうものを「をかし」と言っているのだろうか？</p>	
10	<p>・現代語訳をもとに、それぞれの季節で、挙げられているものを発表する。</p>	<p><b>(指導事項)それぞれの季節ごとに、清少納言が「をかし」としているものを確認し共通点を見つけること。</b></p> <p>春→あけぼの 白くなっていくやまのは 紫がかった雲</p> <p>夏→夜 月 闇夜のほたる 雨</p> <p>秋→夕暮れ 雁などが列になって飛んでいるのが小さく見える</p> <p>風の音 虫の音</p> <p>冬→早朝 雪が降り積もった早朝 霜が白く降ったとき</p>	<p>・前時にも伝えておくが、直接「～はをかし。」と書いてなくてもあてはまることを確認する。児童が挙げた言葉をまとめながら板書していく。</p> <p>☆板書とともに、写真や挿絵を提示し、その情景がイメージしやすいようにする。</p>
10	<p>・「をかし」と感じているものの共通点を見つける。</p> <p>自分が思ったことをノートに書いていく。</p>	<p>・これらのものに共通していることを見つけ、(予想例)</p> <p>どれも静かな様子のように思う。</p> <p>あまり、派手ではなく、ほんのりとした感じ。</p> <p>少し悲しい感じ</p> <p>しみじみとした感じ</p>	<p>☆なかなか共通点を見つけれない児童には、たとえば挙げられているものはみな、華やかなものかそうでないかなど、いくつか考える視点をヒントとして与えていく。</p> <p>(選んだ時間帯もどのような時かなども)</p> <p><b>読</b> 本文で使われている例をもとに、「をかし」について読み取っている。(ノート、観察)</p>
10	<p>・それぞれの考えをグループで話し合う。</p>	<p><b>(指導事項)「をかし」についてグループで話し合い、今の言葉に置き換えられるようにすること</b></p> <p>(予想例)</p> <p>静かな感じがしていいなあ。</p> <p>しみじみとしているなあ。</p> <p>心にしみてきてすてきななあ。</p>	<p>・グループの司会者をあらかじめ決めておき、話し合いの流れを伝えておく。</p> <p>☆それぞれの考えを発表し合った後に、今の言葉で表すとしたらなんと表現するのが良いかグループのみんな</p>

8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで話し合ったことを発表する。</li> </ul>	<p>気持ちが落ち着く感じがしていいなあ。</p> <p>・次の時間からはわたしの「をかし」を見つけていくことを予告する。</p>	<p>で考えるように伝える。</p> <p><b>読</b> 自分の考えを理由とともに伝えている。友達の考えを聞いてさらに「をかし」について考えている。(話し合いの様子)</p> <p>☆難しい場合には、「～いいなあ。」の「～」にあてはまる言葉を考えるとよいと助言する。</p> <p>・発表者は各グループ一人ずつ。</p> <p>・一つに答えをしぼらない。大体似たようなニュアンスであればよとする。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の感想を書く。</li> </ul>		

板書計画 (音読の時には全文を掲示しますが、その後ははずします。)

\*清少納言は、どういうものを「をかし」と言っているのだろう。

をかしの例

春↓あけぼの 白くなっていく山のは  
紫がかつた雲

写真

夏↓夜 月 闇夜のほたる 雨

写真

秋↓夕暮れ 雁が列になって飛んでいるのが小さく見える様子 風の音 虫の音

写真

冬↓早朝 雪の降り積もった朝 霜が降って地面が白い様子 炭を持って運ぶ様子

写真

共通することは？

「をかし」を今の言葉に直したら？

- ・ 静かな感じがしていいなあ。
- ・ 心が落ち着いていいなあ。
- ・ しみじみとしていいなあ。

(児童の言葉で板書)